

# 経済・金融 フラッシュ

## 2月日銀決定会合：

現状維持、インフレーターゲット導入には否定的、国債買入増額は慎重

経済調査部門 主任研究員 矢嶋 康次

TEL:03-3512-1837 E-mail: yyajima@nli-research.co.jp

### 1. 全員一致での現状維持、景気判断も先月と同じ

日銀は17・18日開いた金融政策決定会合で、政策金利の誘導目標を0.1%前後に据え置くことを全員一致で決定した。景気の現状について「国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、内外における各種対策の効果などから持ち直している」との判断を維持した。

先行きの判断についても「2010年度半ば頃までは、わが国経済の持ち直しのペースは緩やかなものに止まる可能性が高い。その後は、輸出を起点とする企業部門の好転が家計部門に波及してくるとみられるため、わが国の成長率も徐々に高まってくるとみられる」と先月の判断を維持している。

その上で金融政策運営については、「きわめて緩和的な金融環境を維持していく」とこちらも先月同様の方針が示されている。

日銀 景気判断・見通し(黄色は上方修正を示す)

	現状
2010年2月	(据え置き)
2010年1月	(据え置き)
2009年12月	(据え置き)
2009年11月	景気は持ち直している
2009年10月	景気は持ち直しつつある
2009年9月	景気は持ち直しに転じつつある。
2009年8月	(据え置き)
2009年7月	景気は下げ止まっている。
2009年6月	景気は大幅に悪化したあとに下げ止まりつつある。
2009年5月	景気は悪化を続けているが、内外の在庫調整の進捗を背景に、輸出や生産は下げ止まりつつある。
2009年4月	(据え置き) ↑
2009年3月	(据え置き)
2009年2月	(据え置き)
2009年1月	景気は大幅に悪化している。

### 2. 総裁会見：インフレーターゲット導入には否定的、国債買入増額は慎重

#### (インフレーターゲットは導入しない?：現在の日銀の枠組みが最適)

「われわれが発表しているのは中長期的な物価安定の理解であり、物価安定はどのようなものかという一種の定義。それについて各政策委員の理解を集めて、その結果は2%以下のプラスの領域であり、1%を中心と考えている。これはあくまでも、中長期的に見た物価安定がどのようなものを明確に示したもの」

「インフレーションターゲットリングは金融政策を運営するときの枠組みの1つであり、英国やカナダ等では

定着している。しかし、今回の金融危機を通じ、反省機運が生まれてきている」

「足元の物価上昇率が目標物価上昇率を下回る状況が長く続く中で、物価の動向だけに過度の関心が集まる結果、物価以外の面で、いわば静かに蓄積しつつあった金融経済の不均衡を見逃し、見過ごし、結果として金融危機発生の一因になったのではないかという問題意識が以前に比べて高まってきている」

「現状ではこの日銀の枠組みが最適だと考えている」

### **(ソブリンリスク、日銀の対応は？：中央銀行は財政ファイナンスを目的としない、国債買入増額は慎重)**

「国際金融市場の安定を維持するために、私自身は2つのことが重要だと思っている。第1は、財政再建の道筋を示し、この点について市場の信認を確保すること。第2は、中央銀行の金融政策運営が財政ファイナンスを目的としないこと、言い換えると、物価安定の下での持続的な経済成長を目的として政策運営が行われていること。また、そうした中央銀行の政策姿勢を政府が尊重し、市場も信認していることだ」

「日銀の使命は適切な金融政策運営を通じて、日本経済が物価安定の下での持続的な成長経路に復帰するよう努めることだ。そうした経済の姿を実現していくことは、財政再建を進める上でも重要な要件の1つを整えることになる。中央銀行の金融政策運営が財政ファイナンスを目的とするものではなく、物価安定を通じて持続的成長に貢献していくと申し上げたが、そうした姿勢で臨むこと、そうした中央銀行の政策姿勢が十分信認を得ている、尊重されるということが大事だ」

---

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。